

## 第4回 今治市総合戦略推進会議 会議録

1 日 時 令和7年11月18日（火）14時00分～16時00分

2 会 場 今治市役所第2別館11階 特別会議室1・2号

3 内 容

1 開 会

2 議 事

- (1) 次期今治市総合戦略（案）について
- (2) 今治市定住自立圈形成方針の改正（案）について
- (3) 今後の開催予定について

3 閉 会

4 出席者 <委 員>（※五十音順、敬称は省略）

相原 正樹 青木 誠 赤瀬 祐三 池田 拓也 池田 忠  
宇佐美浩子 大石 一浩 大成 経凡 瀬野 哲郎 田窪 秀行  
田窪 良子 西原 博史 藤井 康隆 宮崎 秋穂 村上あらし  
吉田 和史

※欠席者4名

<事務局>

総合政策部

企画政策局長 波頭 健

市民が真ん中課

課長 中田 匡亮 課長補佐 尾崎 大輔

政策調整推進官 森 聖二 係長 重松 辰弥

主査 安部 昂大

(委託業者) 有限責任監査法人トーマツ 大阪事務所

玉井 智文

## 第4回今治市総合戦略推進会議 会議録 ※内容1については省略

事務局	(議事1の内容について説明)
会長	海事産業に関連する基本戦略について、愛媛大学工学部が海事産業特別コースを新設し、今治地域地場産業振興センターにサテライトキャンパスを設置するなどの動きがある。また、国が国家戦略として、造船業へ注力することを掲げている。国の動きと連動して、市としてはどのような海事産業への取り組みを行っていくのか。
委員	<p>国は、国内造船業の年間建造量の世界シェアを 10%から 20%に増加させるため、官民で1兆円規模の投資を行う方針を掲げている。一方で、どのように投資を行うのかは今後精査されるが、人員を増やせば建造量も増加するというわけではない。生成A I等を活用し、効率化を図っていく必要がある。</p> <p>中長期的な目標としては、G H G削減及び将来のカーボンニュートラルに向け、性能改善や省エネ装置の開発による燃料消費量削減に加え、L NG、アンモニア、水素などの環境にやさしい燃料で航行する船舶の開発分野で中国・韓国に遅れを取らないよう、オールジャパンで取り組む必要がある。</p> <p>また、今治地域造船技術センターは、運営コストが高いこと等、課題が非常に多く、赤字分を負担している。市からの補助は助かっているが、充分ではなく、従業員が日頃の仕事がある中で、研修の講師も行っている。年間建造量を 10%から 20%に増加させるのであれば、独立した組織として運営していくことが必要であるが、手弁当の状況になっている。機械の更新代すら賄うことができない等、今治地域造船技術センター運営の資金面が大きな課題である。</p>
会長	海事都市今治推進課で、今治地域造船技術センターの運営の予算を拡充するなどの見通しはあるのか。
事務局	海事都市今治推進課を通して、市として何ができるのかを庁内で議論したい。
会長	愛媛大学今治サテライトについて、具体的にどのような取り組みを行うのかが不透明である。今回の総合戦略で触れることが出来れば良い。
委員	M I C E開催において、観光・海事の競争力の向上という視点を持ってほしい。四国で国際会議を開催する時に、M I C E対応ホテルの築後年数経過に伴い、松山市ではなく高松市が開催地となり、人の流れが高松市に向いている傾向がある。今治市を国際都市として発展させることを掲げているので

	<p>あれば、市として方向性を示すことが重要である。M I C E のみではなく、持続可能な施設運営を行う方法を、複数の事業者で模索することが重要である。</p> <p>また、施策 1-2 「今治タオルの更なる発展」の K P I 指標の、今治地区のタオル生産数量が減少目標となっている。トレンドや国内で軽いタオルが好まれていることは理解しているが、減少目標になっていることについては違和感がある。</p> <p>事務局</p> <p>総合計画を策定する時に、各課で各分野の数値調査を行った。目標を設定するにあたり、産業振興課から 5 年後のタオル生産数量の見通しの提供を受けた。本目標は、タオル生産数量の減少を緩やかにしたい意図で、記載の目標となっている。産業振興課に確認を行い、目標数値について検討をしたい。</p> <p>委員</p> <p>人口減少に伴いタオル生産数量も減少することははあるが、国内での国産タオルが使用されている割合が 20% 程であり、泉州タオルと今治タオルが半分ずつシェアを取っている。今治タオルがよりシェアを拡大することで、タオル生産数量を現状値より増加させることはできると考える。また、海外に向けて、海外に日本のタオルを普及させることも一案である。タオル業界内では、海外と日本では、硬水と軟水の違いがあるが、大きな問題にはならないと聞いた。国内タオルでも、現地の硬水用の洗剤を使うことで、ごわごわにならない。様々な観点から考えることで、タオル生産数量に消極的な目標値ではなく、積極的な目標値を置くことも一案である。</p> <p>会長</p> <p>次期総合戦略（案）を前向きに練っていく中で、確認してほしい。</p> <p>M I C E 機能について、取り組み名「世界とつながる海事都市の魅力づくり」の取り組み内容に「M I C E 施設の整備を行い」と記載されているが、今後の見通しを教えてほしい。</p> <p>委員</p> <p>今治市では、2009 年よりバリシップを開催しているが、回を重ねるごとに盛況となるバリシップに関して、ご参加いただいた多くの方々から「出展をしたかったが、会場が手狭で出展が出来なかった」「現状の施設では、実物の装置や機器等の展示を諦めざるを得ない」「会場内が暑くてゆっくりブースを見られなかった」といったお声をいただいている。</p> <p>そうしたことからバリシップに特別協賛している、海事都市交流委員会のメンバーを中心に、今治市内にバリシップなど大規模な展示会等が開催可能な会場を整備してほしいということで要望をさせていただき、令和 6 年度末時点で 21.6 億円の寄付をさせていただいた。また、来月開催予定の海事都市交流委員会において、民設民営や公設公営、官民連携等の手法の在り方や、</p>
--	--

		今後の資金を集める方法について議論する予定である。確実に前進はしているが、まだまだ課題は多い。
会 長		海事産業とタオル産業の議論が主になっているが、農林水産業について、ご意見あるか。
委 員		水産業について、増殖場整備事業が具体的な事業名として記載されている。魚の漁獲量が減少しているが、どのように魚・藻の漁獲量を増加させることができるのかの明確な方法がないため、次期総合戦略（案）に記載の取り組みを進めることになると考える。
会 長		新規漁業就業者が増える見込みはあるか。
委 員		数名、漁業への就業に来ているが、魚が増えないため、安定した生活の見通しが確保できず苦しい部分がある。すぐに、漁業就業者を増やすことは難しい。
会 長		漁業への就業者の定着が困難な中、次期総合戦略（案）に漏れはないか。
委 員		就業者数の向上などのための具体的な取り組みを挙げることが難しいため、記載の取り組みを継続して実施してほしい。
委 員		次期総合戦略（案）に記載の通り、新規就農者数増加のための取り組みなどを行っていきたい。農作物の販売にも注力していきたい。全ての農作物をオーガニックにすることは困難ではあるが、肥料の節減のため、来期は緑肥を活用した事業を農林水産課と協議しながら進める。次期総合戦略（案）に記載の内容に違和感ない。
会 長		農林水産業をバックアップするために、助言はあるか。
委 員		ふるさと納税では紅まどんなが人気返礼品である。紅まどんなはブランディングが非常に上手くされており、生産者の所得も向上しているはずである。一方で、紅まどんな以外では、人気返礼品があまり思い浮かばない。ふるさと納税で取り扱える品はあるか。
委 員		野菜が主になる。また、米は、他地域でブランド米があることから、今治市でもブランド米の生産に力を入れていきたい。紅まどんなも本日から出荷しており、今後も注力していきたい。

委 員	産業に活力を与えるために、労働力不足対策が重要であるが、K P I 指標の「高校生の今治管内就職率（今治公共職業安定所管内）」の現状値 51. 71% から目標値が 56. 71% となっているが、5 年後に 5 ポイント上昇させることは高いのか、低いのかわからない。
事 務 局	目標値 56. 71%について、5 年後に 5 ポイントの上昇は非常に大きな目標であると考えている。
会 長	就業者の増加について、外国人人材の活用については記載ないのか。農業や漁業の現場で技能実習生などの外国人人材の活用ができるのではないか。遠洋漁業での外国人人材の活用などについて、ご意見あるか。
委 員	遠洋漁業の規模が小さいため、外国人人材の活用はあまり行っていないが、加工品工場での外国人人材の活用は行っている。技能実習生については、今治市の加工品工場ではなく、宇和島などの工場で働いていただいている。
会 長	農業法人で、外国人人材を受け入れることはできるのか。もしくは資格等が必要なのか。
委 員	今治管内での受け入れはしていない。一時的に、外国人人材との交流の一貫で受け入れはしたが、雇用の確保や生活面での支援を充分にできないことなどから、年間を通じての受け入れは行っていない。
会 長	ある畜産農家の方とお話をした時に、外国人の雇用を行いたいとおっしゃられている声があったが、外国人人材の受け入れの仕組みの理解など、現場の農家さんでは大変な部分が多いのかもしれない。
委 員	市とともに、デジタル人材育成の講座を開催している。A I を扱える人材を育成する講座も開催しており、海事産業の方達も 100 名以上受講していただいている。現場のD X化を行うにあたり、社外人材にD X化を行っていたいとしても、実際に現場が困っている場所を把握しきれていないなどの理由により、現場にフィットしないことが多い。現場をより知っている、社内の人材がD X化を進めることが重要である。A I を活用することで、造船の材料の適正な発注をすることができ 1, 000 万円程度削減できた事例もある。無料で活用できるツールもあり、人材不足が深刻な中、コストを抑えることができ、人材育成にも寄与することができる。
委 員	施策 1-2 「今治タオルの更なる発展」の今治地区タオルの生産量の目標

		値が 6,100 トンであるが、10 年前は約 10,000 トンであったため、目標値として、減少幅を抑えるということになったと考える。生産量の減少を食い止めるために、施策を実施していく中で、今治タオル工業組合のみが注目される傾向にあるが、今治タオルを永続させるためには、愛媛県繊維染色工業組合、今治捺染工業協同組合等の力なしにはタオルの製造が困難である。縫製のみに着目するのではなく、タオルを生産し販売するまでの全体の目線を持つことが重要であり、横のつながりをもって、プランディングやマーケティングを行うことが重要である。今治タオル工業組合のみがイニシアティブを取ることになると、その他の製造に係る業者などに対して、値段を買い叩くということにもなりうる。タオル産業の全体像を把握した上で、戦略を進めてほしい。
会 長		タオル産業は裾野が広いため、全体を把握して、タオル産業を盛り上げてほしい。続いて、基本戦略 2 の「交流による輝きを生み出す」について、ご意見あるか。
委 員		施策 2-1 「スポーツ・サイクリング・カルチャーの喜びあふれるまちづくり」の KPI 指標で、現状値と目標値が埋まっていない箇所があるが、自転車ネットワーク計画路線の整備延長とは、具体的に何の距離か。
事 務 局		今治駅から糸山までの自動車道の整備の距離になる。
委 員		尾道までのバス路線の確保は難しいのか。自転車を運んで、尾道にバスで行く時に、因島大橋で乗り換える必要がある。以前、1 日 3 便、自転車を詰め込んで直通で尾道まで行ける便があったが、そのような取り組みがまたできれば良い。既に、しまなみ海道は日本一の状態で、インフラも整っていることは承知しております、市の負担も大きくなるため難しいとは思うが、取り組んでいただけると助かる。
事 務 局		尾道まで直通のバス路線の整備は難しいが、今年度から今治港から尾道港までの航路の実証実験を行っている。
委 員		航路の整備は非常に素晴らしい。一方で、航路は認知に時間を要する。弊社の宿泊施設の宿泊客に、航路についてお話をすると知らなかつたと答える人が多い。弊社の宿泊施設もインバウンド客が 8 割で、インバウンド客の 99.9% が自転車を使用するが、インバウンド客が利用する宿泊施設やレンタルサイクルで航路について周知していただくことが重要である。

委 員	F C 今治の来場者数は、昨年は 3,700 人が平均であったが、今年度は J 2 に昇格したこともあり 4,700 人に上昇した。来年夏には、5,300 席から 8,900 席に増席する予定である。アウェイチームのサポーターのための、駐車場や交通手段の整備について市と協議している。J 2 から J 1 に昇格したファジアーノ岡山では、経済効果が 23 億円上昇したとのことである。クラブのカテゴリーが上がることで、経済効果など大きく変わるため、J 1 をを目指していきたい。また、具体的な事業にジュニアアスリートの育成と指導者の育成と記載されており、大変興味深いが、具体的にどのような取り組みを行うのか。様々な競技を行うために、競技施設の整備や育成年代のトレーニングセンターの整備などを行っていく必要もある。
事 務 局	ジュニアアスリートの育成と指導者の育成のために、具体的に何を行うのか担当課と協議をしているところである。
会 長	競技種目によって、オリンピック選手を輩出するような種目もあり、育成が整っている種目もある。そのような育成のノウハウを広めていくことになるのではないかと考える。陸上競技では、アシックスがジュニアの育成を行っているが、次回以降より、ジュニアアスリートと指導者の育成について、具体的な戦略が見えてくると良い。他にご意見あるか。
委 員	F C I の方が今治を世界三大都市にしたいとおっしゃっていたが、本当にそのような都市になればわくわくするなと思う。サイクリングについて、まちの自転車屋さんにお話を聞くと、経営が厳しいと聞いている。サイクリングのまちとして、まちに自転車屋さんなど、自転車関連の風景が日常的に見えることは重要である。例えば、今後E-b i k e の普及などにインセンティブを作ることも一案である。こどもは自転車を購入する一方で、サイクリストや大人は自転車や部品を購入しない。サイクリストのまちとして、大人も市民も自転車をより乗るようになってほしい。
会 長	人口定常化を考えると、移住・定住のサポートが重要になるが、ご意見あるか。
委 員	施策 2-2 「世界に選ばれる観光づくり」について、今治城の訪問客の 4 人に 1 人がインバウンド客である。外から来た方に、今治市でお勧めの場所を聞かれても、今治城の後に勧めることができる場所がない。景観が良い場所もあるが、アクセスが悪く、車以外だと訪問しづらい。今治市に人を滞在させるならば、交通環境の整備が必要である。お勧めの食事場所も、市内に散らばっており、特定の場所をお勧めしづらい。国際都市として今治市を発展

委員	させていくために、外国人も日本人も、訪れてくれた人たちが今治市に泊まって、より観光を楽しんでもらえる工夫を戦略に組み込む必要がある。
委員	大洲市では、観光客が驚くほど増加している。大洲市ではタクシーの台数が1桁台しかなく、タクシーの台数が不足しており、観光客がタクシーを活用できない。専用のハイヤーを希望するインバウンド客も多いが、ハイヤーも配置できていない。今治市では、そのような事態に陥ることを避けたい。観光客がタクシーを利用できるようにタクシー台数を維持するためにも、市民も日常的にタクシーを使用することが重要である。観光客から徴収するタクシー料金を下げる必要はなく、正規料金以上に徴収するのも一案である。
会長	次期総合戦略(案)にタクシーの視点も盛り込んでいただければと考える。今治地方観光協会はDMOになる目標はあるのか。
事務局	しまなみジャパンがDMOになっているため、今治地方観光協会がDMOになる目標は具体的にはお伺いしていない。
会長	基本戦略3「生き生きとした暮らしを支える」について、ご意見あるか。
委員	外国人の妊娠出産など、ここ数年に挙がってきた課題についての記載が抜けている。子育てについては、産婦人科の数が少ないため、医療体制をどのように整備していくのかが重要な視点である。総合計画や総合戦略が5年～10年後の内容なのであれば、外国人へのケアや医療体制の整備についても記載してほしい。教育についても、外国人の児童数が増加しているため、彼・彼女のケアについても明記してほしい。
委員	今治市には産科が2つのみである。全国的な傾向ではあるが、愛媛県でも産科が少なくなってきた。市民から、今治市から産科がなくなるのかと電話がかかってきたこともあり、市民も不安を感じていることがわかる。病院を維持していくために、診療報酬の抜本的な改革が必要である。医療は制度設計から全て国が司っており、現在の医療体制が緊迫している原因は国にあると考えている。病院経営が赤字に陥る主な原因是、看護師の不足である。県立病院では患者はいるが、看護師が不足しているため患者を受け入れることができず病床が埋まらない。病床稼働率が80%を切ると、病院は赤字に陥る。看護師確保に、全精力をかけて取り組んでいる。医療は生活に当たり前に存在するものであるが、医療を維持するのが困難になっている。次期総合戦略(案)に記載の内容は、良い内容が記載されている。AI・デジタル化についても今後より進むことを期待している。

会 長	看護師を増加させるために具体的に事業として何ができるか検討してほしい。地域福祉の観点から、ご意見あるか。
委 員	今治市の地域福祉計画等も策定している途中であり、計画の内容と次期総合戦略（案）の内容にずれもないため、記載の内容で違和感ない。
会 長	基本戦略4「強靭で住みやすいふるさとをつくる」について、ご意見あるか。もしご意見なければ、次回、具体的な事業が定まった段階でご意見を再度伺いたい。
事 務 局	(議事2の内容について説明)  (意見なし)
事 務 局	(議事3の内容について説明)  (意見なし)
会 長	本日の協議全体を踏まえて、最後に何かご意見あるか。
委 員	愛媛大学の海事産業に関する取り組みについては、造船業や海事産業の現場の方と市が、愛媛大学に何を要望するのかを話合うことが重要である。タオル産業については、最盛期は約500社程あったが、今は100社程しかない。今後も減少が見込まれていく中で、次期総合戦略（案）では、タオル生産数量が減少目標になっていると考える。サイクリングについては、交通の便の良さから、今治より尾道の方が強い。今治も、来訪者がどこから来ているのかを把握し、交通環境を整備することが重要である。観光については、特定の場所を今治の観光スポットとしてお勧めできたら良い。タオルについて、今治タオル工業組合にばかり注力されていることについては、私も同意見である。造船業もタオル業も、下請け業者を含めて戦略を考えることが重要である。
会 長	オール今治で、皆で協力しながら、戦略を練らなければ、良い戦略を描けない。本日は長時間ありがとうございました。次回もまた宜しくお願いします。